

山口県保健師職能交流会報告

平成28年2月4日（土）、山口県看護研修会館において、保健師職能交流会を開催しました。先輩保健師の思いを次世代の保健師につなぐパートⅡ 「次世代の保健師へ～イマ伝えたい思い～」と題して、山口県健康福祉部健康増進課 西生敏代課長さんにご講話いただきました。

この交流会は、私達保健師がどの部署にいても「ぶれてはいけないこと」「保健師として持ち続けたい姿勢や思い」を先輩保健師から伝えてもらい、皆で考えていこうと企画したものです。

西生課長さんからは、国の施策の変遷とご自身の保健師活動を熱く語っていただき、若い保健師は山口県の保健師活動の変遷を興味津々で、ベテラン保健師は懐かしく聞かせていただきました。参加した保健師67名は課長さんの「保健師愛」(?)に包まれ、充実した時間となりました。



そんなお話の大事なポイントをご紹介しますと

○今の保健師に求められること

保健師活動は世帯を包括的に見る必要がある。すべてをしてあげるのではなく、その人の持っている力、機能を伸ばす支援が大事。

○分散配置のなかで

仕事が「保健」業務でなくても「住民の健康を守る」という姿勢は同じ。

○常に意識すること

組織の中の自分の立ち位置と専門職としての役割の両方を意識する。

○新任期にやっていたこと、気付き

住民は一次的対応をきちんとしないと不満が残る。自分の課以外の業務（他の班、所全体）も知っておく。

職場のコミュニケーションを円滑に。仕事以外で地域と関わりを持つ。

○中堅期の気付きと学び

事務の大切さ。関係機関との連携。キーパーソンの重要性。

○管理期の気付きと学び

基本的な考えややり方を明確にして部下に伝える。管理する側の言動は現場の士気に影響する。自分は何をするためにこの立ち位置にいるのかを考える。

○心がけてほしいこと

人と積極的に関わり、つながりを大事にする。相談できる人をつくり、助け合える関係をつくる。自分の不得手を知る。

長い保健師活動の中で気づき、感じてこられた西生課長さんの言葉は、説得力があり、何度も頷いていました。そんな課長さんの「多くの人と出会い、つながり、今の私がある」「人は最大の資産である」の言葉を聞きながら、私もたくさんの素敵な資産をつくれるように頑張りたいと思いました。

年齢ごとの情報交換では、日頃の業務のこと、講話を聞いて思うことなどを自由に話し、短い時間ではありましたが、どのグループも盛りあがりました。「やることが多くて、どういう方向を向いていくのか」、「業務で人を見ている」、「横の繋がりが希薄」など日々の悩みも語られていましたが、ベテラングループでは、「分散配置で、連携を意識しないとできない時代、だからこそ体制づくりが大事」という話も出ていたようです。



ベテランの皆さんは、業務の時間内ではなかなか研修等にも参加できないので、よい機会になったようです。

最後まで、課長さんのパワーに圧倒されながら、そして元気がもらえる交流会になりました。参加者アンケートにも、「保健師っていいな、保健師になってよかったなと思えた」、「こんな保健師になれたらという目標ができた」「同年代の人と話せて、情報交換ができた、元気になった」など得るものも多かったようです。

意見交換のなかで「保健師として集まれる場がない。保健師職能の意義がここにある」と語ってくださったグループがあったようです。おっしゃるとおりです！保健師同士が集まり、語り合い、つながり合うことが大事なのです。

保健師職能委員一同、課長さんのお話と参加された皆さんの反応に大いにモチベーションがあがりました！！

西生課長さん、お忙しいなか、たくさんの資料も作ってくださり、貴重なお話を聞く機会をいただき、本当に、ありがとうございました。課長さんの思いは、保健師一人一人が確かに受け取ったと思います。

皆様のご協力で、とても充実した交流会にすることができました。今回は参加できなかった方も次回はぜひ、ご参加ください。お待ちしております！